

男性介護者へ支援の輪を

男性介護者の会づくりに向けて



男性の介護者は女性と異なった介護の悩みを抱えています。(写真は宝塚市で開催の男性介護者の会「のんびり倶楽部」)

介護保険制度が始まって10年目を迎えました。この制度は介護を家族の責任とするのではなく、社会的に担うという目的で始まったものですが、施設から在宅中心へ福祉施策が進む中、家庭での介護負担の増加や課題が大きくなっている面も否めません。

それは、在宅介護の長期化、高齢化、重度化ということに加えて、男性介護者の増加という面でもあらわれています。今月号は、この男性介護者にスポットをあて男性の介護について考えます。

「夫」「息子」 増える男性介護

最近、「男性介護者」という言葉をよく耳にします。

あえて「男性」が付いていることから、この言葉は「介護の役割は女性のもの」と思われてきたことをあらわしています。

しかし今日、全国の在宅介護者336万人のうちの109万人、

およそ3分の1が男性なのです。いまや男性が家庭で介護をするのは「ごく当たり前のこと」ですが、男性介護者特有の困難さがあるといえます。

男性介護者 特有の問題とは

男性介護者特有の問題として、「弱音を吐いたり愚痴を言うのを潔しとせずストレスを貯めがち」



“介護”が誰にも人生の一コマとしてあり得る、自分自身の問題として考えておくことが大切です(2009年3月12日一宮保健福祉センター)

「助けを求めるのが苦手で、一人で責任を背負い込みすぎる」などといった傾向があるといえます。

このことを反映するかのようには、高齢者虐待の加害者は息子と夫が1位と2位を占めており、介護疲れの末の心中殺人事件では、加害者の4分の3が男性、という深刻な統計も出ています。

また、「それまで家事をしたことがなかったために炊事洗濯ができない」「長い会社勤めのせいで地域